

平成 27 年度第 3 回 三笠市総合教育会議

- 1 開催日時 平成 28 年 2 月 16 日（火）午後 1 時 30 分開会
- 2 開催場所 三笠市役所 301 号室
- 3 出席者 三笠市長 西城 賢策
教育委員 折笠 真仁
教育委員 渡辺 恵子
教育委員 後藤 寿
教育委員 杉山 文夫
教育長 永田 徹
- 4 関係職員 副市長 北山 一幸
- 5 事務局職員 企画経済部長 中沢 敏男
総務福祉部長 右田 敏
企画振興課長 小田 弘幸
定住対策主幹 三好 智幸
学校教育課長 高森 裕司
社会教育課長 大村 康彦
三笠高等学校事務長 大野 彰
博物館長 中村 正法
学校教育係長 音羽 英明
企画係主事 廣島 雪乃
学校教育係主事 菅谷 琴乃
- 6 傍聴人 なし
- 7 議事 (1)平成 28 年度教育予算に係る協議について
(2)その他

会議録（要旨）

1 開会

2 市長挨拶(要旨)

人口減少、少子高齢化社会が進み、若者の東京一極集中、北海道では、札幌一極集中化が進む中、地方の創生が叫ばれているところではありますが、国が行う施策は、都会に集中しがちです。国にも常々申し上げている次第ですが、地方の創生を行う上では、適材適所を考えることが重要となります。本市では、地方創生の一環として、本市を巣立った若者たちが再び本市に戻るような仕組み、回帰プランを考えて参りたいと思います。

教育委員会の皆様には、お忙しい中、三重県多気町にある相可高校の高校生レストランの視察に行ってください、ありがとうございます。視察していただいた視点をもとに、新たなご意見を伺い、教育行政の方向性について共有したうえで、次年度の事業を執行して参りたいと考えています。

どうぞよろしく願います。

3 議事

(1)平成 28 年度教育予算に係る協議について

【折笠委員】 札幌交響楽団のプロ演奏者による指導を三笠中学校吹奏楽部に行っているが、三笠小学校にも実施されないのでしょうか。三笠中学校吹奏楽部と連携することで小中全体で部活動の充実を図ることができると思うのですが。

【高森課長】 平成 26 年度から実施している事業で、札幌交響楽団所属のプロの演奏者を招致し、三笠中学校吹奏楽部の演奏技術の向上を図っております。プロ演奏者 1 名による合同演奏指導を年間 24 回とプロ演奏者 10 名による楽器別指導を年 3 回実施しております。吹奏楽コンクールにおいて全道大会に 2 年連続出場するなど、着実に演奏技術の向上が図られております。平成 28 年度予算においては、小学校のスクールバンドへのプロ演奏者 10 名による楽器別指導を年 1 回分計上しているため、小中全体での吹奏楽の充実と資すると考えてございます。

【市長】 本市の吹奏楽部が参加する大会を見に行きましたが、吹奏楽部のレベルを向上させるには、小学校からの活動も必要ではと感じました。教育委員の皆様にも本市の事業が子ども

もたちの活動にどのように寄与しているか、大会などを見ていただいた方がいいのではないのでしょうか。

- 【高森課長】 そのように検討いたします。
- 【渡辺委員】 親子英語教室実施事業は、小学校6年生まで拡大しましたが、どれぐらいの方が参加しているのでしょうか。
- 【高森課長】 3歳から5歳までの幼児は、親子で24名、小1から小3までは、親子で14名、小4から小6までは、親子で16名、合計54名が英語を楽しみながら熱心に学んでいます。
- 【市長】 現在は、お子さんに対しての事業として好評いただいておりますが、この事業が始まる時に私が考えておりましたのは、親御さんもお子さんとともに学ぶことができるようにとの意味合いをもっておりました。今後も親子で学ぶことができるような事業であって欲しいと考えております。
- 【後藤委員】 土曜学習推進事業は、試行的に実施していましたが、順調に進んでいるのでしょうか。
- 【高森課長】 教育研究所の協力をいただき土曜学習を実施しております。地域の人材などの外部講師を招き、音楽や盆踊りの指導、理科の実験、桂沢ダム見学、化石教室などを行い、多様な学習や体験学習の機会を提供しています。開催当初は、8名程度の参加でしたが、現在は20名から40名の児童が参加する安定した事業となっております。今後も子どもたちのニーズにあった体験学習となるよう研究を進めて参ります。
- 【後藤委員】 移住定住促進のために幼稚園は必要だと考えております。幼稚園の設備は、老朽化が進んでいるようですが、対策や整備についてお考えは、ございますか。
- 【市長】 幼稚園の建物自体は、どのような状態ですか。
- 【高森課長】 耐震工事にも対応できないということで、現状維持がやっとの状態です。幼稚園の存続につきましては、移住定住促進のためにも重要だと考えてございます。市内唯一の私立幼稚園の安定的、継続的な運営を図ることを目的として私立幼稚園運営補助金として予算を計上しております。
- 【渡辺委員】 幼稚園授業料等助成事業(ガンバレ子育て応援事業)は、子育て施策として重要だと考えております。実際にお子さんを通わせていらっしゃる方にも好評いただいているお話を伺っています。市の予算を大きく使って事業をされていますが、どれぐらいの方が転入していらっしゃるのでしょうか。

か。

【三好主幹】 過去三年間の住民基本台帳のデータに基づいてお答えいたします。支援制度を始めた平成 23 年から平均 330 人が転入しており、支援制度を始める前の平均の転入者が約 250 人であることから、毎年 80 人程が制度をはじめた効果となります。

制度が開始された平成 23 年 7 月から平成 28 年 1 月までの間に、乳児紙おむつ購入費用助成事業を受けた方が 27 世帯 77 人、保育所使用料の助成を受けた方が 36 世帯 109 人、幼稚園授業料の助成を受けた方が 6 世帯 21 人、家賃助成を受けた方が 89 世帯 195 人、住宅建設の助成を受けた方が 24 世帯 64 人となっており、転入世帯の延べ数が 182 世帯、転入人口の延べ数が 466 人となっております。重複して制度を利用している方がいらっしゃいますので、実際の効果としましては、世帯数として 131 世帯、転入数として 337 人となっております。

【杉山委員】 まちの一大イベントである三笠北海盆踊りの事業内容について教えていただけますか。

【大村課長】 三笠市の一大イベントである北海盆踊りは、今年第 15 回目の節目となるため、市内外に向けて PR の強化を行うとともに和を意識した伝統行事となるよう魅力を充実した事業として計画しております。拡大内容としましては、子ども神輿や提灯行列、手持ち花火による小さな花火大会や浴衣コンテストに男子を追加するとともに、ブランド化となった三笠高校の出店など市全体が盆踊りで盛り上がる雰囲気づくりや三笠らしさを演出していきたいと考えております。

【杉山委員】 三笠らしさとは、何か教えていただけますか。

【大村課長】 伝統ある行事の復活ということで考えてございます。昔に行われておりました子ども神輿や提灯行列を再び行うことで、昔ながらの盆踊りを行っていくことが三笠らしさだと考えてございます。

【市 長】 これらの行事の復活は、前々から検討していたものでございます。ただ、行事を復活させるということだけではなく、もっと言いますと事業の拡大のためには、今のままの踊りでいいのかという疑問もございます。輪になっている形でいいのか、若い人がもっと参加することできる踊りにはで

きないか、原点に立ち返って考えることが必要ではないかと考えております。教育長のお考えはいかがですか。

【教育長】 盆踊りは、本市の一大イベントでもあります。市外からの方にも参加していただくことも大事ですが、市民の方に参加していただき、まち全体で盆踊りを盛り上げるということが重要となってくると考えてございます。

【折笠委員】 スポーツ環境充実事業で野球やサッカーでの指導を受けた子どもたちが、高校生、大学生、社会人となったときにも、その活躍を把握できるような仕組みは、構築されていますか。本市で指導を受けた子たちが活躍しているのは、喜ばしいことですし、本市の良いPRになると思うのですが。

【大村課長】 スポーツ環境充実事業において、指導を受けた子どもたちが日本ハムファイターズのジュニアに選出されるなど輝かしい実績を上げているところでございます。

【小田課長】 スポーツ環境充実事業の初年度に指導を受けた子どもたちが、高校3年になっておりまして、各自進路を決め始めているところだと伺っております。

【市長】 情報を適宜追って本市から収集・発信するように努めてください。

(2) その他について

【市長】 その他、ご意見ございますか。他に何かございませんようでしたら、会議を終了したいと思います。お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。ありがとうございました。

以上